

令和4年度 第1回学校運営協議会

- 1 日 時 令和4年6月20日（月）15時00分～16時30分
- 2 場 所 本校会議室
- 3 出席者 委員（6名）、校長、教頭、首席、指導教諭、教務部長、
進路指導主事、教育センターカリキュラム開発部部長、教育センター指導主事
- 4 議題等（次第順）
 - （1）学校運営協議会実施要項について
 - （2）令和4年度 学校経営計画について
 - （3）教育課程等について
 - （4）校内授業研究について
 - （5）進路指導状況等について

5 感想・質問事項等（意見の概要）

・**1人1台タブレットを生徒が活用するにあたり、教員研修を実施したのか。またどのくらい行ったのか。**

→昨年度末から今年度はじめにかけて、複数回教員研修を実施しました。

・**1人1台タブレットでどんな授業をしているのか。**

→教科書等、授業では説明しきれない部分を単なる振り返りでなく、自ら調べて深めていく。手元の端末に課題が配信されているので、そこに書き込んで解いていき、端末を活用しながら発表する。まわりの生徒は Google フォームでアンケートに今の発表がどうだったか答えながらコメントし、リアルタイムでお互い相互評価ができる。

・**とても参考になり、自分の授業でも取り入れてみたいと思った。パフォーマンス課題で外に出す行為は大事で、インプットだけでなくアウトプットすることで、いろいろなことが身についてくる。もっと色々な場面で広がっていくことを期待します。**

・**図書館の貸出冊数が伸びないところで、探究図書館の取組みは期待がもてる。図書館の部屋をアレンジするところから始めるが、そこでどういうことをされるのか。**

→探究ナビの課題研究で自由に身近なテーマ、問いを立てて課題に挑戦していく。答えを覚えるのではなく問いを立てる。例えば「家に近づくとなぜトイレに行きたくなるか」等、身近なテーマを立てて調べ始めて「図書館に行っていていいですか」と生徒が言い始めたが、生徒はどこにどの本が置いてあるのかわからない。知のカatalogへのアクセス方法を知らない生徒がいる。生まれて初めて図書館に来たという生徒もいた。なぜ図書館に行かないかと聞くと、「本が古い」「暗い」「飲食、私語禁止」「面白くなさそう」

等の理由で近づかない。生徒が行きたくなる探究図書館にしたいと思うきっかけとなった。五角形、三角形の机を組み合わせ、生徒が自由にアレンジし、壁をホワイトボードにして、生徒が自ら学びをデザインする場にしたい。

【広報に関して】

・こちらから中学校に出向く、中学校との連携を深める中で、中学生との交流はどのようにしていくのか。

→一部活動との交流をしている。コロナの制限の中、学校説明会は行うが、交流はまだ慎重に行っていく。生徒同士の触れ合いはまだ少し難しい面がある。

・近隣の小・中・高がつながっているので、できる限り研究授業等のあるときは、情報を交換させていただいて、少しずつ交流を進めていきたいのですが。

→教員と教員の交流は前に進みつつあるが、生徒対生徒がまだコロナ禍で少し考えているところである。中学校訪問は、昨年度同様全教員で行っていく。

【教育課程】

1年生から新しい教育課程である。進路希望が多岐にわたっているので、多様な進路に対応できる教育課程になっている。週当たりの時間数を32時間から31時間に変更した。多様な進路に対応するための講習や個別生徒対応の時間を生徒、教員も確保し、充実させたい。1、2年生はバランスよく様々な教科を学び、従来通りとなっている。特に2年生は学校設定科目を増やし、生徒の学習状況に応じた選択ができるようになっている。3年生では自由選択群は従来通り充実させて、進路に対応した科目が選択できるようにしている。

【授業研究委員会】

目標は生徒の主体的、対話的な深い学びをしっかりと身につける授業を全教員が行う。ICT機器も学びの中に取り入れていく。キャリアパスポートで在学してからどのように変容してきたかポートフォリオ形式でまとめ、本校ではそれをクローバープランとし、定期的に活用し、学びの蓄積を行っている。

校内研修は年3回、全教員で行う。第1回目は4月に行った。校内研修の満足度についても29.8%から53%に上がっている。授業改善をしたい前向きな意欲の表れである。ICT機器よく使うが21%から41%に増加しながらおり、全く使わないが15%から6%に減っている。94%の先生がICT機器を活用し、本校の課題や観点別学習状況評価について教育センターと連携し、指導主事の先生方と進めている。

【進路指導】

学年と進路が連携し、看護、医療、大学短大専門学校、就職、奨学金の負担を中心に指導をしている。各学年、年2回分野別説明会を実施し、生徒に考える機会、きっかけを与えている。夏休みは夏期講習を実施し、進路希望を早く明確に設定できた生徒は勉強時間が増え、学力が伸びていくという外部機関のデータもある。進路希望をいち早く決めていくことが今後大切である。

進路状況は4年制大学、短期大学が増えている。就職、専門学校が減ってきている。4年制大学で65%以上を本年度も目標に掲げている。総合型選抜、学校推薦型選抜（指定校、公募）で年内に進路が決まる生徒が多い。就職希望は1割程度で減ってきているが、求人数は変わっていない。一般選抜で合格していく生徒は少なくなっていることが今後の課題であるので、補習や講習で最後まで教員がサポートしていく。

【学校に望むこと】

・学校も部活動も活発で、希望のもてる学校だと感じる。部活動も無理せず、勝つだけでなく、協力しながら高校生活を楽しんでいる。生徒がデイサービスに来たり、文化祭でも交流があったので引き続きお願いしたい。

・探究ナビは、すべての学校で普通になってきている感じがある。テレビでも他の学校の特集をしていたが、本校が先駆けだと思っている。

・近隣の学校なので今後も交流していただけるとありがたい。中学校もだんだん教育課程も変わってきている。個々の生徒の多様性を認め、伸ばしていき、多様な進路がある中できちんとした進路選択ができるよう協力をお願いしたい。

・児童養護施設の中に高校生もいる。子どもたちの進路の決め方を見ていると、この成績だったらこの学校だろうとなっていて、何になりたいのかどういう仕事につきたいのかモデルがないので、様々な体験をさせたい。探究ナビは素晴らしい取り組みだと思う。自分の意見を会議でも述べられない人もいる。社会に出て自分の意見をしっかり言える子どもを育ててほしい。

・地域から見ていると元気で明るくフレッシュな学校である。コミュニケーション、間の取り方等、探究ナビで深めて生きる力につなげてほしい。

・探究ナビは魅力がある取り組みで、一般教科で成績が取れなくても探究ナビで発揮する生徒もいる。図書館をリニューアルして、学びが深まるのが期待できる。今の時代、親

の時代はこうだったというのは通用しなくなっている。部活動やアルバイトに入っていると上級生との接点ができて、社会で必要な力が身につく。図書館を含め、外部を招く環境を整えば、卒業生で社会人や大学生の経験談を聞かすことで、身近な存在から目標がもてる生徒が出てくるのではないかと思う。身近なモデルを見せてはどうか。

・図書館が今後どう使われていくのか。大学でもただ単に飲食する場だけになっている場合もある。今後、図書館をどううまく使って、どんな仕掛けをするのか楽しみにしている。ICTは今までできなかったことができるようになったこと、今まで時間がかかっていたことが簡単にボタン1つでできるようになったこと、ぜひうまく活用し、学びにつなげていただきたい。

・授業で自分の考えをまとめて発表する機会があるというのが82%あり、そういった経験をした生徒が大学でも活躍できる可能性をもっている。基礎学力も必要だが、探究ナビをしっかり身につけることで、良いファシリテーターをつくっていただきたい。見ず知らずの価値観の違う人が集まって、うまく話し合いを進めて、目標に向けてグループを進めていくことができる中心になる人をつくってほしい。